

日語言談標記「tosuruto」「datosuruto」： 構詞成分與溝通功能

劉怡伶

東吳大學日本語文學系副教授

摘要

本研究目的在於闡明日語言談標記「tosuruto」與「datosuruto」之特徵。分析結果如下：

- 1) 「tosuruto」與「datosuruto」皆為表示於假定前文脈為推論依據時之推論結果為何。
- 2) 使用「tosuruto」與「datosuruto」時，話者並無法確認前文脈內容作為推論根據是否適當。
- 3) 「datosuruto」之機能為表示話者強調若前文脈屬實時會有何推論結果；而「tosuruto」之機能則為表示話者對前文脈真偽無加諸自身判斷。

本論文將說明如依本研究方式分析兩詞彙，非但可掌握其用法異同，同時亦可說明其機能與構詞特徵間之關係。

關鍵詞：推論、接續詞、條件表現、構詞成分、溝通功能

受理日期：2018.03.10

通過日期：2018.05.11

Japanese Discourse Markers “Tosuruto” and “Datosuruto”: Word-formation Elements and Communicative Function

Liu, Yi-Ling

Associate Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

The purpose of this study is to clarify the usages of discourse markers “tosuruto” and “datosuruto”. The results of this study are as follows:

- a. “Tosuruto” and “datosuruto” are used to express the conclusion when the speaker assumes that the content of the first sentence is true.
- b. Both “tosuruto” and “datosuruto” can only be used when the speaker has no idea if the content of the first sentence requires as the basis of inference.
- c. “Datosuruto” is used to emphasize the conclusion will exit only when the content of the first sentence is true. On the other hand, “tosuruto” is used to express that the speaker does not show his or her attitude toward the content of the first sentence.

I also discussed the relation between the function and the construction of these two discourse markers.

Keywords: inference, conjunction, conditional expression,
Word-formation Elements, communicative function

日本語の談話標識「とすると」と「だとすると」 —構成要素と伝達機能—

劉怡伶

東呉大学日本語文学科副教授

要旨

本稿は日本語の談話標識「とすると」と「だとすると」を考察するものである。2形式には次の三つの特徴があることを述べる。

- 1) 2形式はともに前件の成立を推論の根拠とした場合そこから何が推論できるかを示すものである。
- 2) 話し手にとって、2形式の前件は、推論の根拠としていいかどうかという不確かなものでなければならない。
- 3) 「だとすると」は問題の前件を踏まえて何が推論されるかを念を押して示す機能がある。一方「とすると」は前件の成立に対して話し手が評価、判断を控えていることを示す機能がある。

また上記のように記述することにより、相互の相違や類似した表現との違いについて説明できることを述べる。更に2形式の特徴は構成要素の相違に帰することができることを示す。

キーワード：推論、接続詞、条件表現、構成要素、伝達機能

日本語の談話標識「とすると」と「だとすると」 —構成要素と伝達機能—

劉怡伶

東呉大学日本語文学科副教授

1. 問題のありか

条件表現「と」、「ば」、「たら」、「なら」は本来節末に用いられるものであるが、繰り返し使用しているうちに、ほかの表現と融合して談話標識、つまりテキストの結束性や文（発話）と文（発話）の関係の明示に寄与する表現として用いられることがある¹。例えば、(1)(2)の「とすると」と「だとすると」はこの類のものである²。

(1) (略) くらやみ祭りの晩、お松さまと庚申堂で会ったのは、
そいつではございません。とすると、いったいどこのどう
いう男か……」 (横溝正史『人形佐七捕物帳 巻12』)

(2) 確か現場は山名さんの自宅マンションでしたね。だとすると、
顔見知りの犯行という可能性が強いのですか？

(内田康夫『横浜殺人事件』)

日本語教育では「と」、「ば」、「たら」、「なら」は大いに注目されているが、(1)(2)のような条件構文基盤の談話標識³はあまり取り上げられていない。その理由の一つとして、この類の談話標識に対する理解不足が挙げられる。例えば、「とすると」、「だとすると」のほ

¹ 「談話標識 (discourse markers)」について詳しくは Schiffrin(1987)を参照のこと。

² 以下、特に説明がない限り、「とすると」、「だとすると」は談話標識として用いられるものをさす。

³ 「条件構文基盤の談話標識」は藤井(2013)の用語である。藤井では条件表現「と」、「ば」、「たら」、「なら」を含む節末表現が、談話標識化・語用標識化して用いられる接続詞的表現や副詞的表現を「条件構文基盤の談話標識」と呼んでいる。例えば、「すると」、「とすると」、「だとすると」、「どちらかという」と、「なぜかという」となどである。

か、「とすれば」、「だとすれば」、「だとしたら」、「すると」、「そうすると」、「そうしたら」、「そうだとすると」なども形態的に類似した表現であるが、いずれも「とすると」と「だとすると」と同様に、前件⁴から推論した結論を導く機能がある。しかし、各表現はそれぞれどのような用法があるのか、そもそもこれらの表現は同じものなのか、つまり同じ語の異形態のようなものなのかも不明である。

グループ・ジャマシイ(1998)では、「とすると」と「だとすると」は同じものとして扱っている。確かに(1)(2)の「とすると」と「だとすると」は次のように相互に置き換えられることから用法が類似していると言える。

- (3) (略) くらやみ祭りの晩、お松さまと庚申堂で会ったのは、そいつではございません。だとすると、いったいどこのどいう男か……」
- (4) 確か現場は山名さんの自宅マンションでしたね。とすると、顔見知りの犯行という可能性が強いのですか？

しかし、「とすると」と「だとすると」の構成要素を見ると、前者は判定詞「だ」を含まないが、後者は判定詞「だ」を含む。こうした構成要素が異なる形式を同じものとして扱うのが妥当であるとするれば、判定詞「だ」を含む「だとなると」が、判定詞「だ」を含まない「となると」と異なり、談話標識として用いられない理由は説明できない。実際、(5)(6)のように「だとすると」を「とすると」に置き換えると不自然になる場合がある。

- (5) 井上課長：「うん。それが一番、手っ取り早い解決策だね。でも、お客様が増えたのは一時的なことかもしれないし、あるいは店舗の広さの関係で、そう簡単には店員を増やす

⁴ 本稿では談話標識の前の文を先行文、後の文を後続文と呼ぶ。また先行文の表す意味内容を前件、後続文の表す意味内容を後件と呼ぶ。

ことができないとしたら？」

鳥洲君：「{だとすると／?とすると} 困るなあ。どうしよう？」
(本田秀行『TRIZ 発想法』)

(6) 「その訛りから察するに、ニューヨークだ？」

「{だとすると／?とすると}、いいんですか？ 悪いんですか？」
(新井ひろみ訳『よみがえり』)

(5)(6)から構成要素が異なる「とすると」と「だとすると」は類似した用法を持っているが、異なるものとして扱う必要があると言える。更に「すると」、「そうすると」、「だとすれば」、「だとしたら」も構成要素が異なるので、異なるものとして扱う必要があると言える。

日本語学習者にとって、「と」、「ば」、「たら」、「なら」を使って正しい条件文を作ることは重要であるが、条件構文基盤の談話標識が使えれば、自分の中の推論過程を言語化でき、より一歩踏み込んだ議論ができると考えられる。本稿の目的は「とすると」と「だとすると」の用法を記述することである。特にその伝達機能、つまりこの2形式が文脈においてどのように機能しているのかを考察する。本稿では「とすると」と「だとすると」の構成要素に注目することにより、2形式の相違だけでなく、類似した用法を持つ「すると」、「そうすると」との違いも説明できることを論じる⁵。構成要素の記述はこの類の談話標識の分析や説明のための手掛かりになると考える。

以下、本稿の構成は次のようになる。まず、2節では本稿の立場と考察対象を述べる。3節では先行研究の成果と問題点をまとめる。4節では本稿の分析視点を述べる。5、6節ではそれぞれ「とすると」

⁵ 本稿で考察対象を分析する際に特に「すると」、「そうすると」との相違に注目するのは、考察対象となる「とすると」、「だとすると」が「すると」、「そうすると」と異なり、構成要素「とすると」を含むからである。本稿では「とすると」を含まない形式と比較することにより、「とすると」を含む「とすると」と「だとすると」の特徴を捉えることができると考える。詳しくは5.2節で述べる。

と「だとすると」の共通点と相違点を述べる。7 節ではまとめと今後の課題を述べる。

2. 本稿の立場と考察対象

考察に入る前に、本稿の立場と考察対象を述べる。

まず、前節で述べたように、本稿では「とすると」と「だとすると」を含め、「すると」、「そうすると」、「そうしたら」、「とすれば」、「だとすれば」、「だとしたら」、「そうだとすると」などをすべて異なる表現として扱う必要があると考える。本稿の考察対象は「とすると」と「だとすると」の2形式である。

また、本稿では「とすると」と「だとすると」は接続詞ではなく、談話標識と呼ぶ理由は次の通りである。

「とすると」と「だとすると」の使用が広汎に認められる⁶が、その扱い方に関しては辞書によって異なる。例えば、国立国語研究所のコーパスの構築に利用されている電子化辞書『UniDic』には「とすると」と「だとすると」は見出し語として登録されていない。また、『デジタル大辞泉』では「とすると」を「接続詞」として扱っているが、『大辞林』では「とすると」を「連語」として扱っている⁷。ここから、「とすると」と「だとすると」は一語と見なすべきかどうか、また日本語の品詞体系においてどのように位置付けられるかを検討する必要があると言える。しかし、前述のように本稿では品詞論の観点からではなく、この2形式が文章・談話においてどのような伝達機能を果たしているのかを重視する立場である。そこで本稿では「とすると」、「だとすると」のような伝達機能を持つ形式を談話標識と呼ぶことにする。

なお、(7)(8)のように、丁寧さを表すために、「とすると」を「としますと」、「といたしますと」にすることがある。

⁶ 「とすると」、「だとすると」を含め、「となると」、「だったら」、「なら」などの使用実態について詳しくは藤井(2013)を参照のこと。

⁷ 『デジタル大辞泉』にも『大辞林』にも「だとすると」についての記述はない。

- (7) つまりこころの教育は、学校教育の中で、全ての教科や領域の中で取り組むべき重要な課題でもありますし、指導に当たる全ての先生が日常的に取り組んでこそ、成果が出るのだと思っています。としますと、次に課題になりますのが、いつどこでどのように、この教育に取り組んだらよいのかということになります。(『心の教育と生きる力と』BCCWJ)
- (8) 「やはりこの際、安麻呂は呼び戻しましょう」「といたしますと、帥は？」(『永井路子歴史小説全集』BCCWJ)

また、「だとすると」も「としますと」の形で用いられることもある。

- (9) かなり実効が出てきているんですね。だとしますと、実は、金融業というのは非常に日本の中で成長する分野だ。

(<http://www.asahi.com/sympo/terro/011113k.html>)<2017.08.23>

「としますと」、「といたしますと」、「だとしますと」など関連する用法を記述することも重要であるが、本稿ではそれについて考察する余裕がないので、今後の課題とする。

3. 先行研究

本節では先行研究の成果と問題点をまとめる。

「とすると」と「だとすると」に関する先行研究は少なく、筆者の知る限りでは、グループ・ジャマシイ(1998)、森田(1989)、浜田(1991)、馬場(1999、2002)、藤田(1993)、藤井(2013)のみである。

まず、用法の特徴について、グループ・ジャマシイ(1998)では「とすると」と「だとすると」を同じものとして扱い、「前の文や相手の発話を受けて「このような状況／事実を踏まえると」という意味を表す」と説明している。

また、森田(1989)では、「すると」の項目の中で同類の語として「とすると」と「だとすると」を挙げており、その意味的特徴については仮定条件、つまり「もし……たのなら」の意を表すものと説明している。藤田(1993)では「とすると」は「すると」、「そうすると」と同様に前件の内容をいったん承認した上で、話し手の判断等を導く用法があると指摘している⁸。

一方、浜田(1991)は前述の先行研究と異なり、各表現の用法の特徴を記述したものではない。浜田では、「では」、「なら」、「だとすると」など日本語の条件節またはその一部の転用から出来た接続語⁹を「デハ」系接続語¹⁰と呼び、「デハ」系接続語の本質は、新しい情報を受け取った時に生起する推論に基づく積極的反応であるとしている。

例えば、浜田の指摘のように(10)では「だとすると」の前に「なるほど」が来ていることから、先行文脈は話し手(赤瀬川)にとって新しい情報であると言える¹¹。

(10) 石原「なんというか、非常に神経の過敏な、デリケートな人間に限ってね、ライティングの時に左から右へ矯正すると視神経障害を起こすんだ、とアメリカの専門医に言われたことがあります。」

赤瀬川「なるほどね、だとすると、ぼくの場合は矯正した結

⁸ 藤田(1993)では「だとすると」については記述していないが、「とすると」については「そうすると」と異なり、前件は「話し手の主体的な実感・主張の色合いの強い情報、つまり思い入れの強い情報」を表すものが来るとしている。しかし、いわゆる「思い入れの強い情報」とは何か必ずしも明確ではないため、「とすると」の記述を見直す余地がある。

⁹ 浜田(1991)では、接続詞、感動詞、副詞のほか、一語と認めるかどうか異論がありそうなものも含めて「接続語」と呼んでいる。

¹⁰ 浜田(1991)では「デハ」系接続語として「それでは」、「なら」、「それなら」、「そうしたら」、「だったら」、「それだったら」、「すると」、「そうすると」、「だとすると」などを取り上げている。

¹¹ 浜田(1991)のいう新しい情報は、新たに知った情報は勿論、既知の事実を新たな視点から取り直し、新しい前提として推論を導くきっかけとなる情報も含む。詳しくは浜田(1991)を参照のこと。

果、おねしょになったんじゃないかな、もちろんこれは独断ですが。いや、そうとしか考えられないな。」

(浜田 1991 の例 5)

また浜田の説明のように、(11)のような、前件で示している情報は話し手(妻)が知っている場合は「デハ」系接続語は用いられない。

(11) 夫「何時ごろ来るかなあ、桃子たち…」

妻「お昼からって言ってたから、3時頃じゃないかしら…
{だから/*じゃ}、急いで行って来るわ」

(浜田 1991 の例 6')

(10)(11)から「デハ」系接続語は新しい情報を根拠にして推論する時に用いられるものと言える。

日本語の接続詞の体系に注目した馬場(1999、2002)では「だとすると」、「となれば」、「と思ったら」、「と言うと」など、動詞の条件表現形式による複合接続詞を考察し、各接続詞の語形と構成要素の動詞(「する」、「なる」、「言う」、「思う」)の意味との関係を分析している¹²。

また談話標識の体系に注目した藤井(2013)では「とすると」、「だとすると」、「だったら」などの談話標識を形式と機能の観点から分類している。

以上のように、先行研究は「とすると」と「だとすると」の共通点に注目したものが多い。しかし、2形式の違いについての記述はない。また、2形式と「すると」、「そうすると」のような類似した用法を持つ表現との違いについても明らかにされていない。本稿で

¹² 例えば、馬場(2002)によれば、「すると」、「とすると」など「する」系の複合接続詞と比べて、「と思えば」、「と思うと」など「思う」系の複合接続詞の語頭に「そうか～」のような形式が現れ得るのは、その疑いの意味を受けるべく、動詞の語彙的意味が残存しているためであると考えられている。

は前述した問題を解決し、「とすると」と「だとすると」の用法の特徴を分析する。

4. 分析の視点

本節では、本稿の分析視点を述べる。

まず、北野(1989)、佐治(1991)、赤羽根(2003)の指摘のように、接続詞で繋ぐ文の特徴は、接続詞の種類により異なる。本稿の考察対象となる「とすると」と「だとすると」は文章・談話において接続詞と同じ機能を果たすものなので、この2形式の用法を明らかにするために、先行文と後続文の特徴を考察することが有用であると考えられる。本稿の課題の一つは「とすると」と「だとすると」の先行文と後続文の特徴を考察することである。

次に、「とすると」と「だとすると」の特徴を記述するために、相互に比較対照するだけでなく、形態的にも機能的にも類似した用法を持つ「すると」、「そうすると」などと比較する必要もある。特に前述のように、各形式の構成要素が異なるので、それぞれの用法を分析するために個々の構成要素に注目する必要があると言える。

更に、本稿では「とすると」と「だとすると」を用いる時の話し手の意識、態度も考察する。藤田(2016)は、接続助詞¹³「となると」の用法を記述したものであるが、接続助詞「となると」は接続助詞「とすると」と異なり、従属節で示す事柄について受け入れる意識が働いているので、後の文脈でその事柄を否定するような言い方で使えないことを指摘している。

(12) もしも昨日彼に会ったとすると、彼は既に殺されていたのだから、そんなことはあり得ない。(藤田 2016 の例 24a)

(13) ?もしも昨日彼に会ったとなると、彼は既に殺されていたのだから、そんなことはあり得ない。(藤田 2016 の例 24b)

¹³ 藤田(2016)では「～となると」、「～とすると」のような、節末に用いられている、ひとまとまりの助詞的形式を複合辞と呼んでいる。

藤田の考察から、接続助詞「となると」と「とすると」の用法を記述するために、前件に対して話し手がどのような意識、態度を持っているかを考察することが有効であると言える。同じ視点、つまり前件に対する話し手の意識・態度についての考察は、談話標識の「とすると」、「だとすると」の分析にも役立つと考えられる。本稿ではこうした点も考慮に入れて考察を進める。

以上、本稿の分析視点を述べた。以下、「とすると」と「だとすると」の共通点と相違点に分けて2形式の特徴を論じる。

5. 「とすると」と「だとすると」の共通点

5.1 先行文と後続文の特徴

5.1.1 先行文

(14)(15)のように「とすると」と「だとすると」の先行文は、基本的に話し手の判断を表すものである。

(14) 料理というのはある程度、もって生まれたセンスが必要だ。
いくら頑張ってもダメなものはダメ。とすると、定年後は自分に適した、やって楽しいものを見つけることが必要だ。

(『茂太さんの子離れ夫婦の幸福学』BCCWJ)

(15) この研究所につづく道は研究所にしかいけない一本道です。
だとすると、あのトラックは研究所からおりてきたことになります。

(『いつも心に好奇心！』BCCWJ)

(14)(15)では「とすると」と「だとすると」は、後件は前件を根拠として推論した結論であることを示しているが、この場合の推論の成立は、前件で示している話し手の判断内容が事実であることを前提としている。従って、この場合の「とすると」と「だとすると」

は前件が成立する¹⁴ことを推論の根拠とした上で、そこから何が推論できるかを示すものと言える。

次のように、「とすると」と「だとすると」の先行文は話し手の疑いや希望、聞き手への働きかけを表すものもある。

- (16) 「じゃあ、ひょっとしてこの春子は筋書きをなくしたのか。
とすると、われわれの仲間になったということになるな」
(『月のしずく 100%ジュース』BCCWJ)
- (17) 個人的にはどこまでもお気楽楽しいやつがみたい。とすると
とやっぱ江戸時代が舞台ってのが多くなるだろな、時代的
に。
(Yahoo!ブログ、BCCWJ)
- (18) われわれはここで、過去において金持がいかにして選ばれ、
成功をかちえたかに眼を転じよう。とすると、どうしても
鉄道を問題とせざるをえない。(『不確実性の時代』BCCWJ)
- (19) 扁桃腺ではないし、咽頭でもなさそうだし・・・？喉仏の
辺りのことですか？だとすると、甲状腺に異常があるとい
うことでしょうか？
(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)
- (20) 神保町の「51%Tokyo」には行ったことがあるんですが、富
山の方もいつか行ってみたい。だとするとこの企画展に合
わせて…というのも一案ですよ。

(http://www.tokyo21.jp/kinou_to_sayou/) <2017.08.23>

- (21) (略) 関係節が名詞に後続するのが規則だと仮定してみま
しょう。だとすると、同じ意味は、次のような形で表され
ることになります。
(町田健『日本語の正体』)

(16)～(21)では「とすると」と「だとすると」の前件は話し手の判断を表しているのではないが、話し手は前件が成立することを推論の根拠としていると考えられる。従って、この場合の「とすると」

¹⁴ ここでいう「前件が成立する」というのは、先行文の命題が事実である、または事実になる、という意味である。

と「だとすると」は同じく前件の成立を推論の根拠とした上でそこから何が推論できるかを示していると言える。

5.1.2 後続文

(22)(23)のように「とすると」と「だとすると」の後続文も基本的に話し手の判断を表す文である。この2例では「とすると」と「だとすると」は前件の成立を根拠とした推論の結論を示している。

(22) 英彦山のような大山ともなれば、かなりの祭祀が行なわれていなくてはならない。とすると、その祭祀遺物の問題が出てくる。
(『山伏まんだら』BCCWJ)

(23) この分析は、現代アメリカ人女性の心理を正確に代弁しているはず。だとすると、アメリカ女性も“ダメ男の増加”に悩んでいるということになる。

(『COSMOPOLITAN 日本版』BCCWJ)

また、「とすると」と「だとすると」の後に話し手の疑問を表す文が来ることもある。

(24) 「君は、あの老人ホームでアルバイトをするようになってから、この教団の信者になったんだよね。とすると、家では、ぜんぜん《天界神の会》の話は出なかったのかな？」

(『宇宙神の不思議』BCCWJ)

(25) わざとではないので、怒るのはおかしいですか？だとすると、どのようにすればいいのでしょうか？

(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)

しかし、(22)(23)と異なり、(24)(25)では、後件は前件の成立から推論された結論そのものを表しているのではない。例えば、(24)では、前件「この教団の信者になっている」ことの成立を推論の根

拠とした場合「教団の話が出る可能性がある」ことが推論されると考えられる。従って、(24)の後件で示している疑問「《天界神の会》の話は出なかったのか」は、前件の成立から推論された結論を基にしたものと言える。「とすると」と「だとすると」は前件の成立から推論された結論を基にした話し手の疑問を表すことができると言える。

注意すべきは「とすると」と「だとすると」の後続文の文末に話し手の命令、希望、意志を表す表現が現れないことである。(26)～(28)のように、「だとしたら」はこのような場合に用いられる。

(26) スガシカオさんって、本名なのですか？ {だとしたら／?とすると／?だとすると}、漢字ではどう書くのか教えてください。
(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)

(27) 僕らはまだ、脳のポテンシャルをすべて使い切っていないと思うのです。{だとしたら／?とすると／?だとすると}、眠った才能を活用してみたいと考えています。

(<http://horiemon.com/talk/33440/>) <2017.08.23>

(28) 一番嬉しいのは値段をむやみに上げていないところだ。この取り組みは日本だけなのだろうか。{だとしたら／?とすると／?だとすると}外国の知り合いに送ってみようと思う。
(Yahoo!ブログ、BCCWJ)

(26)～(28)では、前件の成立を推論の根拠とした場合、それぞれ「漢字を覚える必要がある」、「才能を活用することが望ましい」、「外国の知り合いに送ると喜んでもらえる」が推論されると考えられる。従って、この場合の後件は前件の成立から推論された結論を基にした話し手の命令、希望、意志を表していると言える。これらの例から「だとしたら」は「とすると」、「だとすると」と異なり、前件の成立から推論された結論を基にした話し手の意志、希望、命令を表すことができることが分かる。

「とすると」と「だとすると」の後続文の文末に話し手の命令、希望、意志を表す表現が現れない理由は2形式の構成要素に条件表現「と」が含まれているためであると考えられる。条件表現「と」は文末に話し手の希望、意志、命令を表す表現が現れないのが特徴である（有田 1993、前田 1995）。「とすると」と「だとすると」はその構成要素に条件表現「と」が含まれているので、話し手の希望、意志、命令を表す表現が後続文の文末に現れないと考えられる。

一方、「だとしたら」には「とすると」、「だとすると」と異なり、条件表現「たら」が含まれる。条件表現「たら」は文末に話し手の意志、希望、命令を表す表現が現れる（有田 1993、前田 1995）。従って、「とすると」、「だとすると」と異なり、「だとしたら」の後続文に話し手の意志、希望、命令を表す表現が現れるのは構成要素の条件表現「たら」が条件表現「と」のような文末制限がないためであると考えられる。「とすると」と「だとすると」が前述した後続文の特徴を持っているのは、構成要素の「と」が本来の条件表現の性格を残しているためであると言える。

以上、「とすると」と「だとすると」の先行文と後続文の特徴を考察した。考察の結果をまとめると次のようになる。

(29) 「とすると」と「だとすると」の先行文と後続文の特徴

- a. 先行文と後続文は基本的に話し手の判断を表すものである。
- b. 先行文は話し手の疑いや希望、聞き手への働きかけを表すものもある。
- c. 後続文は話し手の疑問を表すものもあるが、話し手の意志、希望、命令を表す文は来ない。

上記の考察結果を踏まえて、「とすると」と「だとすると」は、前件の成立を推論の根拠とした場合そこから何が推論できるかを示すものと言える。

5.2 「すると」、「そうすると」との相違

本節では「すると」、「そうすると」との比較を通して、「とすると」「だとすると」の特徴を記述する。

まず、「すると」の実例を見る。(30)(31)では「とすると」と「だとすると」は用いられない。

- (30) 本書のまえがきによると、アト秒科学とは、孤立原子・分子から固体にまで至る幅広い物質を対象とし、電子波束の観測・制御を通して、物性の量子力学的な本質の理解や新たな量子機能性の発現を目指す研究領域、ということである。{すると/*とすると/*だとすると}、アト秒科学は、今後、その対象を気相原子・分子から界面や固体へと広げ、多面的な発展をするだろう。

(http://www.jps.or.jp/books/newbook/rev_2016.php)<2018.3.1>

- (31) 水は足りないと命に関わるから、余分を確保しようとする。余分があるということは、市場原理に従えば在庫がダブついているということだ。{すると/*とすると/*だとすると}、価格はタダみみたいな値段に下落する。

(<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/50580>)<2018.3.1>

(30)(31)では前件から何が推論できるかを後件で示している。従って、この場合の「すると」も推論の結論を示していると言える。

(30)(31)で「とすると」と「だとすると」が用いられない理由は次のように考えられる。即ち、上で見たように、「とすると」と「だとすると」は前件が成立することを推論の根拠とした上でそこから何が推論できるかを示すものである。つまり、「とすると」と「だとすると」を用いる時、話し手の中に、何を根拠としていいか、またそこから何が推論できるかという推論操作の段階が存在するということである。しかし、(30)(31)では話し手が「アト秒科学の今後」、「価額が下落する理由」を説明するために、「アト秒科学の定義」、

「市場原理」を説明している。こうした場合は、話し手が推論を行う際に改めて前件で示している「科学の定義」、「市場原理」を推論の根拠とする必要があるとは思われない。ここから「とすると」と「だとすると」の前件は話し手にとって推論の根拠としていいかどうかという不確かなものでなければならないと言える。

「とすると」、「だとすると」の前件が前述した特徴を持っていることが次の例からも窺える。(32)(33)では「そうすると」は用いられ、「とすると」「だとすると」は用いられない。

- (32) 窓は私にとって理想の書斎に欠くべからざるものなのですが、あまりにも陽が当たるのはよくない。太陽の光は、人心をして何かソワソワせしむるところがある。日が射し込んでくると眩しいだけでなく、何か気もそぞろになってしまうのです。昔から、書院造りの建物ではたいがい書斎の北側に窓をつけていました。そして、「北庭」、つまり家の北側に庭があるのが普通でした。{そうすると／*とすると／*だとすると}、南から光が射しますから、庭に正面から陽が当たっているのを、北側の窓から見るができるわけです。したがって、書斎の窓はすべからず北にあるのが望ましいということになります。

(『知的生活・楽しみのヒント』BCCWJ)

- (33) このようなファとシ抜き音階を俗にヨナ抜き音階といっております。なぜかといいますと、戦前、日本ではドレミファソラシドのことを、ヒイ・フウ・ミ・ヨ・イ・ム・ナと歌わせたことがあるのです。{そうすると／?とすると／?だとすると}、ファとシはヨとナにあたります。それでヨナ抜き音階というコトバが生まれた訳です。

(『やさしい楽譜の読み方』BCCWJ)

この2例では同様に、前件から何が推論できるかを後件で示して

いる。従って、この場合の「そうすると」も推論の結論を示していると言える。

(32)(33)をもう一度見ると、(32)では、「太陽の日があまりにも当たるのはよくない」ことを説明し、日本の書齋が昔からどのように工夫されているかを前件で述べている。また(33)では「ヨナ抜き音階」の由来を説明するために、戦前の日本の音階の歌い方を前件で述べている。このように、日本建築の工夫について説明する際、または「ヨナ抜き音階」の理由について説明する際に話し手が最初からその説明内容を根拠となる事実としていると思われる。その説明内容に基づき推論する際に改めてその説明を見直してそれが推論の根拠だと仮定する必要があるとは思われない。そのためにこの2例では「とすると」と「だとすると」は用いられないと考えられる。

「とすると」と「だとすると」が前述のように、「前件の成立を推論の根拠とする」という意味を含意しているのは、構成要素の中に「とする」が含まれているためであると考えられる。

岩男(2007)、中山(2001)の説明のように、「とする」は、仮定的な事態をさしだす用法がある。例えば、(34)では、話し手は「とする」で「誰かが財布を落とした」「カバンを落とした」という事態が存在することを仮定している。

(34) 例えば誰かが財布を落としたとしよう。いや、カバンを落としたとしよう。(中山 2001 の例 33)

また中山(2001)では、仮定的な事態をさしだす「とする」の語用論的な条件として、話し手にとって不確実な事態が複数存在していることを取り上げている。「とする」がこうした特徴があるので、「とする」を構成要素として含む「とすると」と「だとすると」の前件は、推論の根拠としていいかどうかという不確かなものでなければならぬと考えられる。逆に言えば、「とする」を含まない「すると」と「そうすると」を用いる時は、話し手が前件の成立を推論の根拠

としてよいと考えていると言える。

以上、「すると」、「そうすると」と比較することにより、「とすると」と「だとすると」の前件は話し手にとって推論の根拠としていかどうかという不確かなものでなければならないことが判明した。またこうした特徴は構成要素「とすると」に帰することができることを論じた。

6. 「とすると」と「だとすると」との相違点

6.1 「とすると」と「だとすると」の伝達機能

本節では、「とすると」と「だとすると」の相違点を見る。

まず、(35)～(38)では「とすると」より「だとすると」を用いるほうが自然である。

- (35) 桃太郎は、実の親に捨てられ川に流されたのだろうか？{だとすると／?とすると} ひどい親がいたものです。

(<http://www.mizugaki-kaikei.com/topic.cgi?action=view&code=1341188462>)<2018. 2. 25>

- (36) 井上課長：「うん。それが一番、手っ取り早い解決策だね。でも、お客様が増えたのは一時的なことかもしれないし、あるいは店舗の広さの関係で、そう簡単には店員を増やすことができないとしたら？」

鳥洲君：「{だとすると／?とすると} 困るなあ。どうしよう？」 (例5を再掲)

- (37) 最近思うのですが、朝6時に投稿するとアクセス数が多いなど。通勤・通学の暇つぶしになっているのでしょうか？{だとすると／?とすると} 嬉しいです。

(<https://mypage.syosetu.com/mypageblog/view/userid/432912/blogkey/1955438/>)<2018. 2. 25>

- (38) 「その訛りから察するに、ニューヨークだな?」 「{だとすると

と／?とすると}、いいんですか？悪いんですか？」

(例 6 を再掲)

また、上記の例と異なり、(39)(40)では「だとすると」より「とすると」を用いるほうが自然である。

(39) たとえば、クローンのように、親が 2 つに割れて 2 匹になって、それがまた 2 つに割れて 4 匹になって増えていくとしたら、遺伝子的には全部同じになります。そして、もし最初の親に特定の病気に対する抵抗力がなかったら、その病気に罹ったとたん、全滅してしまうわけですね。{とすると／?だとすると}、どこかで遺伝子を混ぜ合わさなければなりません。 (http://goo.gl/LF1uuQ)<2018.2.25>

(40) 岸本：タイのバンコクに位置するタマサート大学に、1 学期間留学してました。2 年の 12 月の後半に大学の授業が終わって、それから約 3 ヶ月間はアジア 8 ヶ国を旅してましたー

渡辺：かなり長い間言ってたんですね！！{とすると／?だとすると}、他の短期留学と比べてよかったところはどんなところでしたか？

(http://t.cn/REUDnFH) <2018.2.25>

ここでは次の 2 点に注目したい。まず、(39)(40)と比べて(35)～(38)において話し手が前件の成立¹⁵に対してどのような判断、態度を持っているかが読み取りやすいことである。例えば(35)では、話し手がマイナス評価をしており、(36)(37)では、話し手は戸惑いや嬉しい気持ちを表している。また(38)では、話し手の判断、態度を表しているのではないが、聞き手にどのような判断・態度を持って

¹⁵ ここでいう前件の成立とは、前述のように、あくまでも話し手の想像の中でのことである。

いるかを聞いている。ここから、前件の成立に対する話し手の判断、態度が前面に出るほど、「とすると」より「だとすると」の方が用いられやすいと言える。

次に、前件と後件の関係をもう一度見てみると、(35)(38)ではこれまでの例と同様に、後件は基本的に前件の成立を根拠とした推論の結果を表していると言える。つまり、(35)では「だとすると」は前件「桃太郎が実の親に捨てられ川に流された」の成立から推論された結果「ひどい親がいたものだ」を示している。また(38)では前件「ニューヨーク出身だと思われている」の成立から「ニューヨーク出身に対して何らかの印象を持っている」ことが推論されると考えられる¹⁶。こうした場合の「だとすると」は前件の成立から推論された結果を基にした質問を示していると言える。

しかし、(36)(37)では後件「困る」、「嬉しい」は前件の成立を根拠とした推論の結果を表しているとは思われない。(36)(37)では前件「簡単に店員を増やすことができない」、「通勤・通学の暇つぶしになっている」の成立から「人手不足の問題が生じる」、「通勤・通学の時間を利用して自分の投稿を読む読者が多い」などが推論されると考えられる。こうした場合、後件「困る」、「嬉しい」は推論の結果というより、推論の操作に伴い、話し手の中に生じた感情であると言える。ここから、「だとすると」は「とすると」と異なり、推論の操作に伴う話し手の感情を表すこともあると言える。

一方、(35)～(38)と異なり、(39)(40)では、話し手が前件の成立を推論の根拠とすると同時に、その成立について自分の判断・評価を控えていると言える。ここから、前件の成立に対して話し手が評

¹⁶ (38)では、話し手は前件を述べた聞き手の行為に基づき、聞き手が自分の出身を推測していると推論した上、「ニューヨーク出身はいいかどうか」と聞き手に尋ねている。つまり、この場合、話し手は前件を踏まえて推論していると言っても、これまでの例と異なり、先行文の命題ではなく、先行文を発した聞き手の言語行動に基づき推論を行っているのである。Sweetser(1990)の指摘のように、接続詞は文の命題だけでなく、会話参加者の言語行動のレベルにおいて機能する場合もある。(38)では「だとすると」は言語行動のレベルで機能していると言える。接続詞が機能するレベルについてはSweetser(1990)を参照のこと。

価、態度を保留している場合は「だとすると」より「とすると」を用いるほうが自然だと言える。「とすると」は前件の成立に対して話し手が自分の判断・態度を控えていることを表す機能があると言える。

上の記述で「とすると」と「だとすると」とも用いられる例も説明できる。

(41) コンサル：「年に何冊読むんですか？」

京野：「(…1冊も読まないけど…) そうですねえ、1冊ぐらいですね」

コンサル：「あ、そうですか年に1冊ですか。なるほど。京野さんはいくつまで仕事しますか？」

京野：「55くらいでアーリーリタイアしたいですね」

コンサル：「そうですか、{だとすると/とすると}、京野さんのビジネスマン人生ってあと30年なので、京野さんはビジネス人生で30冊しか本は読まないんですね」

京野：「…」

コンサル：「30冊っていうと、この本棚の一行分もないですね。」

京野：「…確かに…」

(<http://leemanparadise.com/neta/post-2221/>)<2017.08.23>

(41)で2形式がともに用いられるのは二通りの解釈が可能であるからである。即ち、「だとすると」を用いる時は、話し手(コンサル)が前件の成立に対してマイナスの評価をしているので、前件の成立を推論の根拠とした場合どのようなことが推測されるかを念を押して示していると言える。一方、「とすると」を用いる時は、前件の成立に対して話し手が特に評価、判断の意識を持っていないか、評価、判断を控えていると考えられる。

本稿では、前述した「とすると」と「だとすると」の伝達機能の相違は構成要素の判定詞「だ」の有無に帰することができると思う。判定詞「だ」はもともと肯定的な断定判断を表すもので、名詞について述語を作る機能がある¹⁷。判定詞「だ」の意味機能に注目した劉(2012)では、更に日本語の一語名詞文「名詞。」と「名詞だ。」との違いを比較し、前者は「対象の存在そのものを語る表現」で、後者は「発話時に認知した存在対象が何であるかという話し手の判断を語る表現」であることを指摘している。

劉(2012)の指摘を踏まえると、「だとすると」の構成要素の判定詞「だ」は述語を作る機能を失っているが、発話時において前件の成立に対して話し手が何らかの判断・態度を持っていることを示す機能があると言える。更に言えば、前件に対して何らかの判断・態度を持っている話し手が、その前件の成立を推論の根拠とした場合どのような結果が推論されるかを念を押して示すために「だとすると」を用いると言える。それが故に、前述のように、「だとすると」は「とすると」と異なり、前件の成立に対する話し手の判断、態度が前面に出るほど用いられやすいと考えられる。

以上、「とすると」と「だとすると」とを比較した結果、「だとすると」は前件の成立を推論の根拠とした場合、そこから何が推論されるかを念を押して示す機能があるが、「とすると」は、前件の成立に対して話し手が評価、判断を控えていることを示す機能があることが明らかになった。また2形式の伝達機能の違いは構成要素の判定詞「だ」の有無によるものであることを論じた。

6.2 「とすると」と「だとすると」の使用文脈

本節では「とすると」と「だとすると」は実際、文脈でどのように機能しているのかを見る。

まず、「だとすると」の例である。(42)では話し手は口臭のことで

¹⁷ 判定詞「だ」について詳しくは郡司(2015)を参照のこと。

質問した聞き手にアドバイスしている。また(43)では、話し手は目の前の状況を判断し、聞き手に警告している。

- (42) 小児の口臭の最大の原因は鼻疾患による口の中の乾燥と言えます。まず原因の究明をしなければなりません。寝ている間に口を開けっ放しにしている事はありませんか？だとすると耳鼻科等の通院も必要かもしれません。

(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)

- (43) 「土屋組は名うての武闘集団だからな。だとすると重松、おまえが狙われる可能性も大いにある。気をつける」

(『男について』BCCWJ)

前述のように、「だとすると」は、前件の成立を推論の根拠とした上でそこから何が推測されるかを念を押して示す機能がある。(42)では前件で話し手の疑いを示しているが、その疑いを根拠とした場合、そこから何が推論されるかを「だとすると」で示している。また(43)では前件で話し手の判断を示しているが、そうした判断を根拠とした場合、そこから何が推論できるかを「だとすると」で念を押して示している。従って、(42)(43)の「だとすると」は、推論の結論と同時に、話し手が何を推論の判断材料として慎重に考えているかを示しているとも言える。

(44)も「だとすると」の実例であるが、この例では、生物がDNAを修復する酵素を持っていることについて説明している。

- (44) DNAは少々のことでは変化をこうむることのない、ずぶとい性質の分子であり、そうであればこそ遺伝子という生物の究極的な重要性をもつ役割を担っているのです。しかし、この分子も紫外線にさらされると、ずたずたに切断されるという弱味があります。いうまでもなく、太陽光線には紫外線が含まれています。だとすると、このことは生物

が日光のもとで生きていくのについて、きわめて不都合となります。実際、DNAの切断は、日常的におこっているのです。しかし、生物というのは、実にうまくできているもので、こうして紫外線の作用で切断されたDNAを、つなぎなおすような酵素を、ちゃんともっているのです。

(『細胞の社会』BCCWJ)

ここで注意したいのは、「だとすると」で示している推論の結論が事実でないことを話し手が予め認識していることである。(44)では、事実、つまり「生物がDNAを修復する酵素を持っていること」だけを説明してもよいが、先に酵素の存在を考慮せずに推論した場合のような不都合なことがあるかを「だとすると」で念を押して説明しておくほうが、酵素の重要性がより理解できると考えられる。この場合、「だとすると」は説明、議論を深めるための手段として用いられていると言える。

次に、「とすると」の例である。(45)では新人と呼ばれることについて述べている。また(46)では病原体の正体について説明している。

- (45) 流行歌手とかタレントさん、あるいはスポーツ選手だったら十代、せいぜい二十代ぐらいまでだろうが、小説家や画家の世界では三十代、四十代になってもまだまだフンドシかつぎという人がたくさんいる。同じ文学でも歌人、俳人となればもっと年輩者が活躍していて、六、七十歳の現役歌人なんてザラである。とすると、六十歳の私が初めて小説を書いて「新人」とよばれても、そんなに羞かしがることはないんじゃないだろうか。

(『京の祈り絵・祈りびと』BCCWJ)

- (46) 暗い予感が英世の頭に浮んでくる。あれがスピロヘーターでないとなると、南米で発見した病原体はどうなるのか。あれはたしかにスピロヘーターである。とするとやはり南

米の黄熱病とアフリカのとは違うのか。いや二つとも本当は同じもので、ともにスピロヘーターではなく、一部の学者が知っているように、素焼きも通す超微細なウィールスに近いものなのかもしれない。(『遠き落日』BCCWJ)

前述のように、「とすると」は、前件の成立に対して話し手が評価、判断を控えていることを示す機能がある。(45)(46)では話し手は結論を出すために推敲の過程を示しているが、「とすると」を用いていることから、話し手は、前件の成立に対して自分の判断、評価を加えず推論を行っていると言える。

以上、「とすると」と「だとすると」は実際、文脈でどのように機能しているのかを見た。本稿の記述で文脈における2形式の振舞いも説明できることを示した。

7. まとめと今後の課題

本稿では「とすると」と「だとすると」を考察した。分析結果をまとめると次のようになる。

(47) 談話標識「とすると」と「だとすると」の特徴

- a. 2形式はともに前件が成立することを推論の根拠とした上でそこから何が推論できるかを示すものである。
- b. 2形式の前件は話し手にとって、推論の根拠としていいかどうかという不確かなものでなければならない。
- c. 「だとすると」は前件の成立を根拠とした場合そこから何が推論されるかを念を押して示す機能がある。一方、「とすると」は前件の成立に対して話し手が評価、判断を控えていることを示す機能がある。

上の記述で「とすると」と「だとすると」の相互の違いや類義表現「すると」、「そうすると」との違いだけでなく、2形式の用法と

構成要素との関連についても説明できることを示した。構成要素はこの2形式を理解するための手掛かりになると言える。また条件構文基盤の談話標識を分析するために構成要素に注目する必要があると言える。しかし同じ構成要素、例えば判定詞「だ」を含む談話標識には同じ意味・用法の特徴があるとは限らない。同じ構成要素を含む談話標識の間にどのような共通点があるのかについての記述はこの類の談話標識の理解に役立つと考えられる。この点については今後の課題としたい。

参考文献

- 赤羽根義章(2003)「注釈の接続詞の意味用法」『宇都宮大学教育学部紀要第1部』第53号、宇都宮：宇都宮大学教育学部、pp.1-11.
- 有田節子(1993)「日本語の条件文と知識」益岡隆志(編)『日本語の条件表現』東京：くろしお出版、pp.41-71.
- 岩男考哲(2007)「『とする』構文についての覚書」『日本語・日本文化』第33号、箕面：大阪大学日本語日本文化教育センター、pp.1-16.
- 北野浩章(1989)「『しかし』と『ところが』：日本語の逆接系接続詞に関する一考察」『言語学研究』第8号、京都：京都大学言語学研究会、pp.39-52.
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』東京：くろしお出版、pp.1-693
- 郡司隆男(2015)「日本語のコピュラ文の形式意味論的分析」『神戸松蔭女子学院大学研究紀要言語科学研究所篇』第18号、神戸：神戸松蔭女子学院大学学術研究委員会、pp.13-24.
- 佐治圭三(1991)「接続詞の分類」『日本語の文法の研究』東京：ひつじ書房、pp.281-301(『月刊文法』第2号(12)、1970.10初載).
- 中山英治(2001)「仮定的な事態をさしだす『～とする』とその周辺」『人間文化学研究集録』第10号、堺：大阪府立大学大学院人間文化学研究科、pp.21-32.

- 浜田麻里(1991)「『デハ』の機能—推論と接続語」『阪大日本語研究』第3号、豊中：大阪大学文学部日本学科(言語系)、pp.25-44.
- 馬場俊臣(1999)「複合接続詞の体系的考察の試み：動詞の条件表現形式による複合接続詞を対象として」『語学文学』第37号、札幌：北海道教育大学語学文学会、pp.19-29.
- 馬場俊臣(2002)「複合接続詞の語形と語彙的意味：動詞の条件表現形式による複合接続詞の場合」『語学文学』第40号、札幌：北海道教育大学語学文学会、pp.75-84.
- 藤井聖子(2013)「現代日本語における条件構文基盤の談話標識(化)：その形式と機能に関する類型試案」『言語・情報・テクスト：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要』第20号、東京：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、pp.87-101.
- 藤田保幸(1993)「接続詞『すると』『そうすると』『とすると』『と』をめぐって」『詞林』第13号、豊中：大阪大学古代中世文学研究会、pp.63-82.
- 藤田保幸(2016)「複合辞『～となると』について」『表現研究』第103号、東京：表現学会、pp.1-10.
- 前田直子(1995)「バ、ト、ナラ、タラ—仮定条件を表す形式」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』東京：くろしお出版、pp.483-495.
- 森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』東京：アルク、pp.1-329、
- 劉雅静(2012)「一語名詞文から見る『ダ』の意味機能—中国語の“是”との比較を重ねて」『日本語文法』12-1、東京：くろしお出版、pp.88-104
- Schiffrin, Deborah (1987) *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press
- Sweetser, Eve E. (1990) *From Etymology to Pragmatics*. Cambridge University press. (澤田治美訳(2000))『認知意味論の展開—語源学から語用論まで』東京：研究社、pp.1-240)